

# 試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：県北での栽培に適したカキの優良品種			
〔要約〕 県北部での栽培に適する完全甘ガキとして、上西早生と陽豊の2品種を選定した。松本早生富有と比較し、上西早生は果実品質が同程度で収穫期が3～4週間早く、陽豊は果実品質がやや劣るが豊産性で渋残りしないのが特徴である。			
キーワード（専門区分） 栽培 （研究対象） 果樹類－カキ （フリーキーワード） カキ， 品種， 県北， 上西早生， 陽豊			
実施機関名（主 査） 農業試験場果樹研究室 （協力機関） （実施期間） 1994年度～2000年度			

## 〔目的及び背景〕

県北部の黒ボク土地域にあるカキ産地では、主要品種である松本早生富有の花芽着生が少ないため収量が低く、さらに年によって渋残りするなどの問題がある。そこで、県北部での栽培に適する完全甘ガキ品種を選定する。

## 〔成果内容〕

### 1. 上西早生

収穫期は10月下旬～11月上旬で、松本早生富有より3～4週間早い（第1表）。1果重は240g、硬度は9.01bs、糖度は15.6%で、いずれも親品種である松本早生富有と同程度である（第2表）。初期収量が低く、緑斑症が発生する欠点があるが、果頂裂果や条紋などの障害は少なく、渋残りもほとんどない（第3表）。よって本品種は、早期出荷と労力分散を図れる点で有望である。

### 2. 陽豊

収穫期は11月上旬～中旬で、松本早生富有より1～2週間早い（第1表）。1果重は253g、肉質はやや粗く硬度は8.61bs、糖度は14.8%とやや低いが、渋残りは少ない（第2表）。果頂裂果や汚損果はやや多いが、へたすき果や条紋の発生は少ない（第3表）。また、花芽着生が安定して多く豊産性である。よって本品種は、松本早生富有の欠点を補う品種として有望である。

## 〔留意事項〕

1. 品種本来の特性を発揮するため、早取りは慎み、完全着色果を収穫する。
2. 上西早生は花芽着生が少ないため、弱せん定等により樹勢を落ちつかせて花芽着生を促し、収量を高める。
3. 陽豊は花芽着生が多いため、高品質果生産のために摘蕾を励行する。

## 〔普及対象地域〕

県北部の黒ボク土地域

## 〔行政上の措置〕

## 〔普及状況〕

[成果の概要]

第1表 供試品種の展葉期、開花期、収穫期 (月・日)

品 種	調査 樹数	展葉期	開花期			収穫期		
			始	盛	終	始	盛	終
上西早生	2	4.10	5.24	5.26	5.28	10.17	10.27	11.08
陽 豊	2	4.12	5.26	5.29	5.31	11.01	11.11	11.22
新 秋	2	4.13	5.22	5.24	5.27	10.24	10.28	11.04
東京御所	1	4.14	5.23	5.25	5.28	10.23	10.30	11.07
松本早生富有	2	4.10	5.21	5.26	5.29	10.31	11.20	12.04

注1 平成8～12年の5年間の平均値。

注2 松本早生富有は、収穫適期に達しない果実でも、11月下旬以降の  
適当な時期に一斉収穫した。

第2表 供試品種の果実品質

品種名	調査 果数	果皮色		硬度 ( $\text{N}$ )	糖度 (Brix%)	含核数 (個)	1果重 (g)
		梗あ	果頂				
上西早生	40	4.4	5.3	9.0	15.6	2.9	240
陽 豊	30	5.6	5.5	8.6	14.8	2.0	253
新 秋	30	4.3	5.2	6.0	18.8	4.0	258
東京御所	45	4.9	5.1	7.6	15.7	1.7	248
松本早生富有	50	5.2	5.7	8.7	15.7	3.7	213

注1 松本早生富有は平成8～12年の5年間について、その他の品  
種は6年生に達した年から平成12年までの3～5年間につい  
て調査を行った。

注2 1果重は1樹当たり収量を全収穫果数で除して求めた。

第3表 供試品種の障害果発生率

(単位：%)

品種名	調査 果数	果頂裂果					へたすぎ果				条紋	汚損果
		無	微	小	中	大	無	微	小	大		
上西早生	189	94.3	4.0	1.7	0.0	0.0	49.8	23.3	17.5	9.4	0.0	24.2
陽 豊	239	60.4	22.1	14.4	3.0	0.0	49.0	27.0	9.3	14.7	0.0	41.3
新 秋	192	54.0	16.7	17.1	7.9	4.3	32.2	24.1	24.0	19.7	71.3	83.5
東京御所	146	48.4	24.7	17.2	7.5	2.2	31.7	12.6	19.7	35.9	1.3	26.6

注1 果頂裂果は平成11～12年の、その他の項目は平成10～12年の平均値。

注2 果頂裂果及びへたすぎ果の発生程度は、育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法  
(農水省果樹試, 1994)の基準に基づき分類した。

[発表及び関連文献]

平成6年度～平成10年度果樹試験成績書 (農業試験場)

平成12年度落葉果樹試験研究成績概要集・栽培関係2 (農林水産省果樹試験場編集)

平成12年度試験研究成果発表会 (農業試験場)